



## 自分は大丈夫ではない!!

### 野球を中心とするスポーツから外傷を防止する No.2

高校生に「マウスガードの装着」の意味を認知させることは、容易なことではありません。校内での事前指導講習で予め「その必要性」を感じとり、外傷防止という目的意識を育ませていきます。野球部1年生を対象に明海大学学長の職にある安井利一先生に特別講義をいただきました。「歯と口は大切な臓器である」と言う、引き込まれるような話の中で、オリンピック選手やWカップで話題となったラグビー選手の必需品になっていることは、生徒たちにとってとても関心を抱くことに繋がりました。

# 専門家による特別講義



明海大学学長 安井利一先生 2019.10.17

生徒たちは口の中に入れる違和感を払拭しながら「その重要性」を理解していきます。怪我で選手生命を絶たれる選手も多いことから、学校での安全教育は必須と考えます。「首から上の怪我」は、命取りにもなりかねません。日頃からの意識的な習慣が生徒の意識を高めていきます。



特別講義の後は、市販タイプのマウスガードを作成し、実際に装着、生徒たちは「馴染むこと」からはじめていきます。明海大学歯学部の松本准教授から指導をうけていきます。

## スポーツ外傷防止教育普及

◆「スポーツで前歯を失う子どもを減らしたい」— 予見学習やマウスガード装着の普及啓発にも取り組む

アスリートのパフォーマンスに加えて、スポーツ歯科では体育活動における外傷予防も重要なテーマとして捉え、啓発活動にも取り組んでいる。スポーツで前歯を失う中学生・高校生は多く、それを減らしていくには子どもたちに対する教育が重要になるからだ。

ルールの理解や技術の習得、用具の管理に加えて、教育で特に重要なのは「予見学習」である。すでに体育活動における過去のデータを見れば、どの競技で外傷が多く起こっているか、また外傷がどの部位に多いかもわかっており、そのエビデンスを基にきちんとサポートすることが求められる。そしてもう1つ重要なのが安全具の装着だ。中学校のバスケットや高校の野球は外傷が多く、その部位も上の前歯に集中していることから、こうした体育活動でマウスガードの装着が徹底されれば外傷の可能性は大きく減る。